

石岡地区保護司会 会長賞

「僕ならどうするか」

府中中学校 一年 島田 岳門（しまだ かくと）

毎年夏休みに僕は「社会を明るくする運動」の作文に取り組む。自分のおかれている立場をみつめ直し周りの人達に感謝する、そんな一呼吸する時間だ。先日ニュースで部活の違法薬物所持事件が関係者からの報告で発覚した事で、母が兄が中三の時の話をしてくれた。

兄は、野球部のキャプテンだった。部員みんな仲良く、家に泊まりに行くような関係だった。ところがその仲間の一人がおもしろ半分で学校の購買で万引きを繰り返すようになってしまった。もちろん友人達はやめるように話したが聞かずにそれは続けられていた。兄は友人として、野球部のキャプテンとしてどうすべきか思い悩

んだそうだ。大会を控え発覚したら大会にでられなくなるかもしれない。勉強との両立をしながら必死に練習してきた仲間のこと、自分の思い。それに対して自分が先生に相談したら、私立中学なのでその友人は退学になってしまいかもしれない。

泊まりに行った時のお母さんの顔もうかんだ。ついに、兄は決断したんだ。きつと先生はいい方向にもっていかけてくれる！一緒に行くと言った部員も断り、たった一人キャプテンとして信頼できる先生の所に行った。「僕ならどうするだろう。」きつと見て見ぬふりをしているだろう。「ちくろ」とか「いい子ぶっている」とか言われるのがいやだから。兄は友人の人生をか

えてしまうような行動をとることに、つぶされそうな思いに必死で立ち向かったんだ。その友人は退学となった。その数年後、僕の二番目の兄が大学入学した時その退学した友人が一浪して、同じ学部にいたそうだ。何て偶然の巡り合わせだろうか。兄はその時ほっとし、重い気持ちが無くなったのではと母が言っていた。中学三年生の時以来、初めてその友人の事を笑顔で兄が話したそうだ。もし、あの時見ぬふりをしていたら試合には出られず、友人関係も壊れただけではなく部員皆のつらい過去になってしまっただろう。

兄には信頼できる先生がいた。そしてそれに応えてくれた先生達のおか

げで今の兄や退学した友人、野球部のメンバーがいる。

世の中には信じられない事件がある。おもしろ半分で人をきずつけてしまったら、火をつけてしまったり、おさえることができないのはその後、どのような惨劇になるのかを予想できないからなのだ。

家族や周りの人はどんな悲しい思いをするのか、一歩立ち止まり「逆算」してみる。周りを幸せにして明るい毎日を送るために今すべきことを考える。今色々なことに悩んでいる人達に伝えたい。まずは、必要とされる自分を想像してほしい。自分がいることで助かる人、喜んでくれる人そんな人々のすがたを思い浮かべそれに値する自分でいられるよう今をがんばる。

僕は幸せなことに、僕のことを大切に思ってくれる人がたくさんいる。だから僕が充実した生活をしていることとでみんなが笑顔になるだろう。そのため今できることを「逆算」して努力していこうと思う。

兄もそうであったのだろう。最後の大会をみんな笑顔で終わらせるためどうするべきか、中学三年生が必死

に考え決断したんだ。

自分が苦しい立場になる怖さより正しい道を取る。大人になった兄は今でも、自分のことより家族のこと、友人のこと、会社のことを思って過している。両親が「もうゆっくりしなさい。」「もう少し楽しいたら」と言うくらい何事にも夢中で日々挑戦をしている。夢が叶わなかった時でもリベンジして満足する環境になるよう努力する。自分次第でとり返しがつかないことなんてそうはないんだ。

ずっとしまわれていた兄の話聞いてから頭の中で「君ならどうする」がよぎるようになった。「僕なら…」逆算しながらみんなを、社会を、自分を豊かにするような決断をしていきたいと思う。

